戦争のない平和な世界を
～平成２２年度東通村戦没者追悼式～

９月24日（金）、戦没者慰霊碑前において、平成22年度戦没者追悼式が行なわれました。

はじめに、参列者全員で戦没者に対する黙祷が行なわれた後、戦没者慰霊碑を前に、越善靖夫村長より追悼のことばが述べられました。

続いて、来賓を代表して南川誠一村議会議長、また、遺族を代表して相内正幸遺族会長より追悼のことばが述べられ、参列者全員により２００余柱の英霊に対し、献花が捧げられました。

戦争によって肉親を失った遺族の方々の心には、消えることのない深い傷跡が残っており、戦後65年を経過した今日においても、未だ癒されることはないようです。

戦後に生きる我々は、この平和が恒久のものとなるよう努力し続けなければなりません。

追悼のことばを述べる越善村長

遺族代表の追悼のことばを述べる相内会長

献花を捧げる参列者の皆さん

今年の「サケ漁況の見通し」について学ぶ
～東通村漁業連合研究会「研修会」を開催～

９月１７日（金）、村漁業連合研究会が「サケ漁況の見通し」についての研修会を開催し、地方独立行政法人青森県産業技術センター 内水面研究所 主任研究員 相坂幸二氏より講演をしていただきました。

サケの来遊予測は、河川遡上尾数、沿岸漁獲尾数と年齢構成、海況予報等から推測されますが、今年は河川遡上数が１０．９万尾、沿岸漁獲尾数は１０７万尾となる見込みのため、サケ漁の見通しは「昨年を上回る」と予測されるとのことでした。

また、今年のサケ漁を占う上でその動向が大いに注目される大型クラゲの出現状況ですが、今年は出現数が昨年よりかなり少ないとのことで、参加者は安堵の表情を浮かべていました。

当村のサケの水揚量は、平成２年から９年まで４，０００トンから５，０００トンと県内でも有数量を誇っていましたが、平成１０年以降は２，０００トン前後、昨年は大型クラゲの影響もあり、約１，１００トンと低調に推移していることから、会員は講師の説明に熱心に耳を傾けていました。

挨拶をする伊勢田会長

講師 相坂主任研究員

熱心に耳を傾ける参加者の皆さん